

バストス週報

第1044号
昭和45年
五月五日
発行
Director
Koiti Mori
Redator
Shion Oda
Rua Pres.
Vargas 188
C. Post. 112
Fone 40
BASTOS
C. P.
Annual
M. Cr. #
18.00
Adian

霹靂 18

演舞場はどうなるか

○火付役は谷口さん
今年の中央区の新年会に谷口文協会長さんが、バストスの町も大分美化されて大変結構だが、毎朝自宅を出てAV. 18 de JIの通りを会社の方へ下って行くと、一線会館(目下中央会館)の建物がいやでも目につく。古くてきたなくて、ほんとのボロ家屋になっていて、会合に使えるわけでもなく、がらくた道具の物置き場になってる。

バストスの美観からいっても、早く取り壊してしまおう方がいいんじゃないですか。そして、そのあとを、どう利用するかは、区民諸君の研究課題とし、此後一月一日を中央区の新年会と同時に総会日と決めたらどうですかと、一席ぶつたのである。さすが文化協会会長だけに、着想もいいし、中央区の恥部とは云わなかつたが、その後の情勢を動かす口火となつ燃え上ったことは偶然とは言いい切れないものがあるようだ。

○小茂田区長頭をかかえる
吾々一区民にとつては、谷口発言は、ずばりと、驚きものだったという点で大層面白く拍手してすむことだが、小茂田中央区長にとつては頭の痛い発言だったらしい。かつては州立中学に貸したり、日語学校の校舎に提供したりして中々重宝がられたものだが、次第に腐朽して廃屋に迫りものになると、誰も鼻もひっかけず、目に触れておほいほい扱ひにするとは、ああ、年はとりたくない……と、自分ごとのように嘆いたが、区の所有物だから、会議にかけるより方策なしと、去る二月十五日、中央区の臨時総会、廃物屋同様の会館で開催した。

○救いの手

これより前、松原現市長は、中央区の役員に向つて、中央会館敷地と、演舞場敷地を市にくれなしかと、非公式に申出があつたので、臨時総会の席上では、自然と引か発揮し、それなら一と、市へ寄附してしまつたらどうだ……というこ

毎度ありがとうございます

御徳泊に御食事に
御会食に御宴会に
御家族づれのお食事に
毎本曜日のフェジョアーダ
日本料理、ブラシル料理、
やさそば、
たべやまなといろく



Hotel e Bar Restaurante PRIMAVERA

パール・食堂・ホテル プリマヴェーラ

森川悠一

電話 九二

い梅はふれない……といつて只差し上げるはいままましい。……文珠の智慧ではな
いが、両箇所ともアスファルトにな
つていて、その公課も支払っていないし
、又支払う準備金も、ほんとうは、ない
という有様。それが何千コントになるや
う、その公課をナイダにした上、中央区
へ五千コント寄附してもらおう。
それから、演舞場の方には立派な舞台
を建ててもらおう。中央会館の方へは幼
稚園設置という条件で、両箇所とも市に
寄附と決定した。

以上臨時総会の結果を松原市長と交渉
条件の結果を一しよくたに記してしまつ
たが、市との交渉に当つたのは、小茂田
、早川、正副区長その他の委員等であつ
た。

○再び臨時総会

去る四月二十一日、演舞場移転につ
いて、再び臨時総会の招集があつた。これ
までの演舞場の建物は、ルアに沿つて建
つてはいるが、反対の東側に建てること
が、あるため、掘り下げねばならぬ。掘り

下けると外観の美を損ずるといふ理由で、技師の忠言によれば、一線会館の敷地の方がよろしい。角にある二宅地を買収できれば、理想的な広場になり、舞台、楽屋、水洗便所など新設すると、七万コソトの予算を見ればならぬ。二宅地に代る土地というのと、旧演舞場ということになり、四ダツタあるから、二ダツタを宅地交換に当て、銀行寄りの宅地は売却するといふのが市の案で、この承認を求めて来たが、訪日中の小茂田区長に代つて留守師団長格の早川氏は、それは約束が

ちがう。私の一存では計いかねると、区会に計り、遂に臨時総会となつたものである。

○早川副区長大いにねばる
早川さんは、区民の心のよりどころのようなものが演舞場には強く働いてくれているので、あそこへ舞台を作つてくれるなら構だが、あそこを処分して一線会館の方だけということになると、第一区民をたましたような事になり、気分的にも納まできないと、大いにがんばるが、市長代理の木村ドットトルも、なかなか負けはおらず、大局から見ると、何も区民を満着したことはない。情勢の変化によつては予定の変更だつてあり得る。双方少しムキになつて主張し合つた様子。

○今までの入植祭の主催者
ここで一寸説明に入るが、これまでの入植祭典は、日伯文化協会が外観内容とも実力で主催して来たものである。代々の市長さんを名譽総裁に奉つて市との連系を保ち、五年毎の玉子祭りは州からの補助を仰ぐ仲立ちになつたりして貰つていたのだが、昨年からは一変して、市が入植祭の主催となり、文協が後援をする事になった。

さく廻では州観光局が、各地の祭礼の許可を下す役所となり、同局の許可を得なければならぬことになつたためである。昨年は交附金(祭典費用)がスムーズにゆかなかつたりした。由だが、今年からは早々その準備にかかり、木村さんが祭典委員長に任命され、色々なプランを考へていく。由だが、演舞場移転案もその一環である。

○木村村案によると、一線会館の敷地40×45の正面へ舞台を作り、楽屋と、男女別の水洗便所をそなえ、芝居やショーをやる時は舞台となり、通常は戸を立てて大きな寢室に使うことができる。外部よりバスとスを訪問するカラバーナ隊、視察学生隊など宿舎にも利用できる設計の由、工費七万コンはかかるだろう。

おしらせ

五月廿日(土)午後七時半

講師 西山正一先生

オリソニヨス市、ソロカバナ第二連合会
教化支部長

生長の家講演会

どなたも有益なお話をおききのがないように、御案内いたします。

主催 生長の家バストス教会

谷口雅春先生「人生読本」より

使う筋肉は強靱となり

使う精神は若さを増す

主催 バストス生長の家誌友会

敷地は隣接する二宅地を接収することが出来れば40×65の理想的な大広場となる。しかし、一方旧演舞場は手放すに到るかも知れない。

○決は採れたが……
新演舞場は一線会館敷地に移すという市案は総合の承認ということ、多少反対を押し切つて裁決された。しかし、実際問題として本年入植祭に舞台建物は間に合わないのではないか。かりに突貫工事でも間に合わせるにしても、幕だとかその他重要備品は舞に含ませて作らねばならぬから、無理ではなからうかといつたささやきもある。

そこで考えられることは、舞台敷地が移転ときまつた以上は、何も慌てて建てるには及ぶまい。この問題は市案を中心にして、文協や中央区との間に、わだかまりや、感情的なものがあるのこつてはいけない。あくまでも完全な諒解のもとに協力を惜しまない体勢を整えて、然るのち着手してよい話ではないかと思われ。

○市と中央区の話し合の条件の中には、幼稚園や、その他の件もふくまれていることだが、いつ、どこで、どう作ろうかという具体案は示されて居らず、一線会館敷地の拡張についても、明確な保証はなく、い

ねばならぬ点も突かれていられるらしい。

○場所としては、新名所作りとして、一線会館敷地がよい。そのためには、旧演舞場の確保に拘わる人も開眼しなければならず、このところ気持の整理をして、悠々くり時間をかけて研究されることを望むものである。

今年には旧演舞場で辛棒し、四十五年入植祭を目標として、大成に邁進されてはどんなものであるうか。系音

バストスの柑橘栽培者へ警告

真木 諭吉

去る四月二十五日綜合会館で柑橘のカシク口病に就いての講演会がありました。が、カシク口病は現在の進歩した科学でも未だ防禦の方法がなく、発生したら抜根して焼却するより外方法がないという、実に恐しい病気であるから、大いに警戒せなくてはならない事でありませぬ。

而し、カシク口病は、現在国家が眞剣に対策を構じているから、我々は其の方針に随って協力すればよいのであります。が、他の病害虫については栽培者自らが予防法駆除方を研究して対処せなくてはなりません。

ところが其の害虫や病菌が発生しているのを知らなかつたり、知つていても其の対策を怠つていられる人がありはしないでしょうか。現在バストスには、貝殻虫の一種で、繁殖力の猛烈な悪質の害虫が発生して大きな損害を蒙つております。

最もひどいのはグロリアⅡ区の浦部、吉浦氏のボン柑であります。葉は大半落ち、蜜柑には幼虫がビッシリ喰つて居て、売り物にならない物が多く出来ております。是れの成虫は白い柔かい虫で、幼虫は髪の毛を切つたような、細長い小さな虫で、双方とも葉の両面や、蜜柑の表面に喰つて居ります。

成虫は風が吹けば何所までも飛んで行きます。恐ろしく繁殖の速い虫であります。此の恐る可き害虫は、おそろく全バストスに発生しているものと思われま

す。聞く処によりますと、ウニオン一区の小倉氏の蜜柑にも発生していた由、畑中さんにも発生しているとの事、松森さんなどは、三千コントスもの薬品を使つて駆除に務めたけれど、いまだ完全に駆除できなかつたか聞きました。

私方にも、昨年道路下に一アルケール程モロコシ種を植えて居りますが、両側

御 礼

私こと

去る二月二十一日イアクリ道よりリツパン道へ曲ろうとした瞬間、前面より私の車の側面へ急カーブでぶつかつて来た車がありました。そのため不測の事故を起してしまいました。双方共に車は大破し、可なりを負傷を負いましたが、その後骨折も癒着し、どうやら快癒致しました。その節は皆様より御親切な御見舞を賜わり誠に有難ございました。

一々御礼に参上致す可きですがまだ果して居りませぬ。取敢ず紙上を以て厚く御礼申し上げます。

七〇年 四月廿一日

野 沢 一 衛

知友各位

から成虫が飛んでくるので、其の若樹にも全部発生しております。

此の害虫駆除対策を早く構じなかつたならば、バストスの柑橘は、近い将来全滅の恐れがあります。

柑橘を栽培している人は、一度吉浦氏や、浦部氏のボン柑畑に行つて見られるようお勧め致します。尚、自分の蜜柑畑をよく調べて見る事です。

バストスは、蜜柑や西瓜、メロン等の最適地で、其の味の良い事は既に全伯に轟き渡つて居り、他地方の品を売る商人は、バストス品の偽名を語る者さえ居る現状であります。

斯く如く、味の良い品物が出来る事は、バストス人に与えられた天與の恩恵であります。この天恵を生かして良質の果物を多く生産して市場に供給するところが、バストス農民の任務ではないでしようか。

養鶏専門に偏せず、バストスに最も適したボン柑を消滅させることなく、多量に生産して市場に送り出し、養鶏バストスと共に、ボン柑バストスの名を益々昂揚すべきだと思ひます。

畏れら病害虫の予防や駆除は個人が如何に努力しても、一般が協力しなくては、其の実績は挙らない事でありませぬから、生産者一同の協力が最も必要であります。

すから、其の行動を実現するためには、ノールパウリスタ果樹栽培者組合や、バストス農村シンシケートが真剣になる事でありましょう。

此の際速かに、此の恐しい害虫を撲滅するよう木村、西、両会長に御願います。次第であります。

海外に光を掲げし人 8

前田常左衛門伝

同村大川原の前田茂二郎の次男徳市、当時十三歳(妻の従弟に当る)を、将来長女みよとめあわせることを前提として養子に迎えた。これで家族構成はできた。彼の意気は、悲壯感の中にもはげしい功名心に燃えた。移民としてのしつかりした心の準備ができた。

十五、神戸での悲運

昭和二年五月二十五日、同郷から同時に渡航を希望した、志気、小杉の兩家族と共に、親、兄弟、親類、知人などと情別の握手を交して、再び故郷をあとにしたのである。この時の所持金は三百円であった。しかし、彼の烈々たる志気にもかかわらず、意外な悲運が彼を待っていた。それは、一家を挙げて神戸まで来て乗船に際しての身体検査の結果、彼自身トラコーマと断定された。ついに乗船は許されず、意気揚々と出航する同郷の志気、小杉の兩家族を見送らなければならなかった。

この頃はまだ、移住幹旋所などという、安くて便利な宿泊所はなかった。家財一切を整理して故郷を出発して来た今となつては、おめおめ故郷へ引返すわけにもいかなない。だからといって、次の出航まで約一カ月間を、これだけの人数で旅館住いとなると、三百円の旅費はまたたく間に使いはたしてしまい、船賃はおろか、目の治療代も残らないだろう。途方にくれた彼は、どこか部屋借りする以外に方法はないと決心して、方々を探し歩いたあげく、港川町九町目の重松仙藏方に、事情を打ち明け、懇願してようやくく寄宿させて貰うことができた。

彼はここから眼の治療に通うかたわら、日雇い労働をやった。妻は幼児利えを背負い、隆之の手をひいて、薪拾いでかけるといった具合である。こんな切りつめた生活でも、彼の懐は日増しに淋しくなつていった。質屋ののれんぐりが繁しくなつていった。ペル時代にあつた洋服も帽子も、そしてペル時代の唯一の記念品として愛蔵していた二十ド

盛業中の

パール

エンポリリヨを

売ります

尙分人手が足りませんので、盛業中のパール・エンポリリヨを売りたいと存じます。

御希望の御方は御来談下さい。

ドッキデカシマス街

パールエンポリリヨ水口

育雛成績を上げましょう

◇旅で疲れて来た初日令のピントに、

◇バシーナをした時の発熱時に、

◇ガイオーラからガイオーラへ移した時に、

◇弱わそうなピント、元気がないピントが現われた時に、

◇病気の時、他の薬に合わせて、

 **ビタ・ストレス**

ニシタラムを、四〇リットルの水に溶かし、五日から七日間与えます。

尚カゼビキ、コクシジュームの治療には、ゼビスルキシンを御使用下さい。

ビタ・ストレス 共にこの組合にもあります。スルキシリン

獣医 牛 尼 貴 國

Eleetro Radio Oriente

テレビヅノール各種
ステレオ電気蓄音機
ラジオ・ピアノ・金庫・タイプライター
扇風機(ウインチラドル)ラジオ トランジスタ
令蔵庫(ジュエラ デイラ) センタクマキナ
その他何でもあります
各種家庭用電気器具類一切

ガルサ市・ルア・エイトロペンテアード 一―番
本店 八卷兄弟商会

ガルサ電話ヒヒ三番 郵函二ヒ九番
御注文はバストス市 ツツキデカシマス街角

代理人 守佐美宗一
バストス電話 店一四六番 自宅一 二五番

ルの金メタルまでも、ついに手放さなければならなかった。彼は、これらの品を質に入れ、寄宿先きに良ろうとしたとき、鳥打帽子をかぶった眼付きの鋭い刑事に呼びとめられ、警察署に同行を求められた。人通りの多い路上で弁明することも愚かな事だと思ひ、連行された警察署で彼は、身なりに不相応な品物を入質した点を指摘され、詰問された。その瞬間、煮えかえろような腹立ちをおぼえたが、怒りを押さえて自分の経歴を物語った。彼の入質品はすべてT・Mの頭文字が入っていたので盗品でないことがわかり、すぐ放免されたが、そのくやしさといつたらなかった。

「おれもこんなにおちぶれたか」と思うと、つい涙がこみあげてきた。彼はしばらく拳を握って路傍に佇んでいた。苦しい一カ月が経った。いよいよ次使、マニラ丸の出航の日が近づいてきた。幸い眼の方も、手術の結果が良く、ようやく出航できると喜んで、見廻品の整理をしていたところへ一通の電報が届けられた。不吉な予感を感じた。開いて見ると「ハハシス」の電文である。

「天にも地にも、かけがえのないたった一人の生みの母が死んだのだ。同じ日本、この国土の中にながら、死水もとつてやれないとは、なんとおれは不孝者であろう」

渡航決意を打ち明けたとき、「思いとどまってくれ」と泣いて止めた母のことが、今更のように思い出されて、あれが最後であったか……と、豪気な彼も男泣きに泣いた。せめて野辺の送りでもしたかった。しかし出航を目前にひかえて、どうして帰郷することができよう。無念ではあるが志の前には是非もないことであつた。

「お母さん許して下さい。常左は必ず頑張つて、わが前田家をきつと再興させてみせます。どうか草葉の蔭からみていてください」と、彼は故郷に向つて合掌し、心に固く誓つたのであつた。

十六、ブラシルへ渡航
昭和二年七月七日午後四時、彼ら親子六人に乗せた大阪商船マニラ丸は神戸港を離れた。埠頭から船から、五色のテープが投げ代わされ悲喜交々の情景がくりひろげられた。こうした中に、特別の見送り人とてない彼ら六人の親子は、水尾の彼方に遠ざかつてゆく六甲の山に手を振り別れをつげた。船は瀬戸内海をとり、関門海峡を通過し、玄海灘を経て長崎に寄り、香港シガポールと航海を続けた。

死亡通知並に会葬御禮

母、西むめ^(88才)儀老齢のため病氣という程のこともなく身体衰弱し、安静中の処、去る四月二十二日午後九時長逝いたしました。依って翌二十三日午後四時出棺バストス墓地に埋葬いたしました。此儀生前辱知各位に謹告申し上げます。

追而、葬儀に際しましては御多忙中遠路の処態々御会葬下され、その上過分なる御香料、花輪など御給供賜わり、誠にありがとうございました。とうございました。

一々御廻礼申上げる筈の処、取込中につき其の意を得ず、失礼乍ら取敢えず紙上を以て厚く御礼申し上げます。

一九七〇年 四月二十四日

アルト区(バストス日本荘)

喪主

西

忠

良

四女

伊

藤

圭

ら

魚

親戚

伊

藤

精

三

郎

長

橋

菊

夫

子

宮

久

保

洋

子

土

田

清

次

子

土

田

政

治

子

山

芝

廣

子

一

友人代表

馬

欠

場

哲

夫

バストス 仏教婦人会 様

バストス 南米本願寺 様

バストス連合仏教婦人会 様

バストス 老人倶楽部 様

アルト区 皆々 様

動脈硬化 5

予防と症状と治療

生きていくことを自覚している人間には、生活における万事が生存競争であり、戦争である。油断があつたら必ずやられる。これを覚悟して生きねばならぬ。動脈硬化にならない前に予防治療するなんて雲をつかむようなものだと考えてはいけない。禅に「隻手の音声」という言葉がある。片手で拍手の音が出るものか？、禅僧はでるといふ。つまり、動脈硬化発生前の予防、治療もその伝である。他の言葉でいおう。肉体の養生の前に、心の養生をすることである。

わたしは禅宗の高仙管長訪伯の際、親しく語り合う機会を得た。氏は九十六才の高令なのに、血圧は五十歳前後の人のそれであり、また、心臓の調子は私よりととのつていた。言葉は婦人のようにやわらかで、足の強さは若い和尚さんがまけるほどで、心のきれいさは全く深山の澄みわたつた湖のようであつた。ただ単に、私のであつた生きた聖僧のみでない。日本高僧伝を眺めてもみんなが生れながらの老人かと思ふほど高令ぞろいであり、又、チベットのマラ僧にも高令の人が多い。信仰の深い人々、カトリック教のサント、神父さん、あるいは回教の信者でも、信念の人、心の静かな人に、いかに長命の人が多いことか。

つまり、霊的心の壮盛で信仰に深く、雑念なき心の静かさを保てる人、今日も明日も平常心を保てる人、あるいはまた徹底した平和主義者、コーカサス地帯の牧人のように一切ものを考えぬ人々が、動脈硬化の起らぬ「隻手の音声」である。生きていくる人体の隅々からも毛様血管壁の毒を生み出さぬようその元は精神の安定にあること、徹底した心身の鍛練の上に作られるのである。ここにノルドマンの言葉を挙げて参考に供そう。

「血管壁への病的な神経の作用、血管壁の循環障害と血液の頃のよくないこと」の三つが硬化の原因である。この悪を除くこと、これこそ動脈硬化予防治療の基本である。これに注意しても老化していくことは防げない。ここで現われてくる身体の変化症状は痙縮期の症状である。どんな病気でともそうであるように、動脈硬化で初期の痙縮期へアンジオエスパスモの頃は軽くろよよとした神経炎か偏頭痛、あるいは脚気かわからぬくらいのものである。相当な遺伝因子濃厚な一族「中気にかかり易い系統」の人であっても、この時期に注意すれば充分寿命

を全うできるといふことである。

症状しびれ、自覚されなど

老化現象（硬化現象）は、全身一様にくるものであるが、その初期の症状の現れ方は万人万色で、自分だけではわからない。以前コロニアに矢崎さんという元老で有名な人がいた。この人は、足が冷える足が冷えると、二三年いっつづけていた。血圧を計つてみるとむしろ低くすぎるくらいである。そうしているうちに足が弱つて来て、私の診療所のあるカンタレーラ街一六番の三階まで登りきれない。二、三度途中で休むようになった。やがて足ばかりでなく息ぎれもするといふ。そこで、心電図をとつてみると、心臓壁の動脈硬化がうんとすすんでいくことがわかつた。これでは仕方ない、動脈硬化は高血圧ばかりでなく、低血圧も起つてくるし、やがて動けなくなるといつても承知しないので、今一人の専門家、シャイロ、ラーモス先生に診てもらいなさいと勧めて診察をうけさせた。正にその通りで、二三年しか命はもつまいといわれてあわてだした。

日本へ旅行して親族や兄弟にもあい、生きていくうちに遺産もすつかり処置した後、やはり三年もまたずしてたおれたのであつた。もう一人、高岡先生は、血圧がいつも二百くらいあるのに身体はなんともない。私は鉄人だといつて診察をつづけておられた。いろいろ励めても私だけは大丈夫とウイスキーを三日に一本づつあけ、健啖善眠健康を誇りにしておられたが、ある日往診の帰りに片手がきかなくなり、家に帰つたときは足もきかなくなり、やがて昏睡状態。その時分に血圧最高三百二十、最低百四十にもなり、血中コレステロールは四百が近く（普通人の二倍）尿素も百近くで、これでは助らぬわけである。幸い脳溢血でなく脳毛様動脈の痙縮であつて、ほどなく目もさめ、半身不随もなつて来た。

Fabrica de Granito
Av. Rio Branco 9/n Fone 515. C. Post. 23
ADAMANTINA

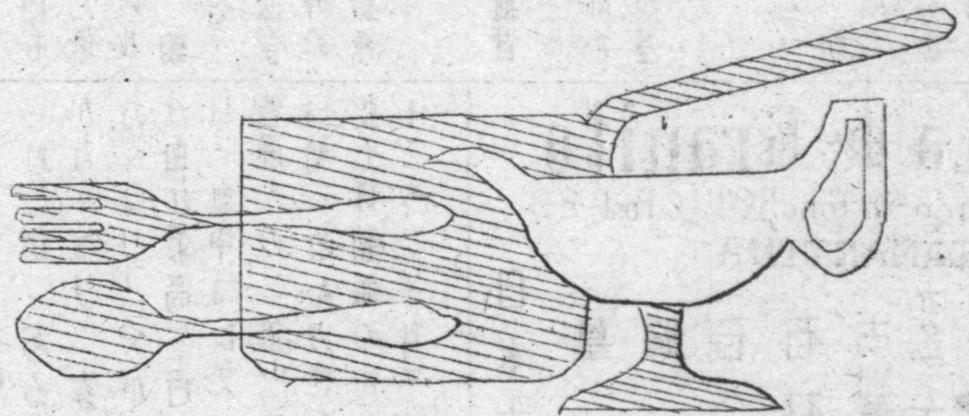
日本式及ブラジル式
墓 碑 記念 碑
胸 像 石 燈 籠
石 白 もち 白
石材美術彫刻一切
古い墓碑の修理もいたします
アダマンチーナ市リオブランコ大通り
大西石場
大西文吉 電話 五二五番
電話 五二五番

御料理の味付には今大好評のスーパー味



SUPERAGI

最高の味調



輸入元 遠藤貿易株式会社
製造元 協和醗酵工業株式会社
製東 元京

狂犬病について

皆さん、油断はなりません。バストス病院の話では、今年一月以降、犬にかまれて治療を受けた人が四十人もあるそうです。皆が皆狂犬ではありませんが、その肉何%か狂犬病の疑いがあったら、大変なことです。名はちよつとはばかりですが、市中で狂犬病と診断され、撲殺された犬もすでに出ています。狂犬病は人がかまれても、馬がかまれても、一旦病気が発生したら、絶対治療の方法はなく、只、死をまつばかりといえます。早期に予防注射して発生を防ぎ、噛まれたら、すぐ手当をしないと、とりかえしのつかぬことになります。次号で、狂犬病について、少しく抜萃してみましよう。

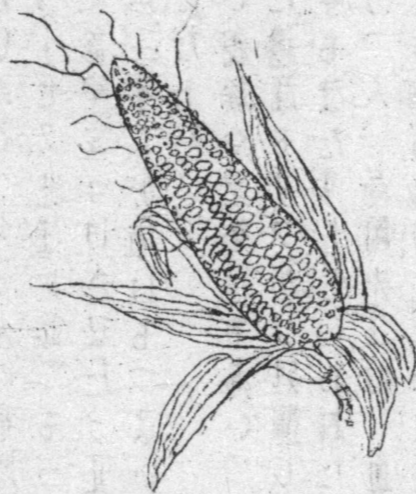
Debulhadeira de Milho "PENHA"

Debulha-se Milho

Procurar SR. EDSON CLAUSIO Rua 10 de Novembro 1084.

Fone 259.

ou deixar recado à Rua Presidente Vargas 312 Fone. 200-9/MORISHIGUE



三ツリヨ
脱粒

迅速お安くいた

します

申込所

ルア 10 デノベンブ

一〇八四番

エツンククラウド

電話 二五九

又は、ブヴァルガス街三二

本林重まで御申出下さい

電話二〇〇

この度、バストス市役所より「狂犬予防注射の実施」の切なる依頼があり私も多忙の折から引受け難い所でありましたが、狂犬病の怖しさを身近に熟知し、今回の実施のお手伝いをさせて戴いております。

今年に入りましてから数頭の狂犬と思われる犬を診ました。

その中である犬は、発狂状態を呈し、ある犬は、ただ単に衰弱し、流涎（よだれ）をだらだららす状態のみ呈するなど、まちまちですが、いずれにしましても、狂犬病の疑いを充分に現わしているものでした。

又、バストス病院に於ては二月だけで四十人以上、三月には、二十人以上の人が犬に咬まれ、ワクチン接種に来たということでした。

（注、人が犬に咬まれてからする注射は血清ではなく、石炭酸、又は、紫外線不活化ワクチンである。このワクチンも今日では大變研究されて、良くなつて来ていますが、首から上を咬まれた場合、ワクチンをしなくても必ず助かるという保証は未だありません。又、このワクチンに對しての副作用は、何らかの違和感、極端な場合は、麻痺症が現われことがあります。

野犬が発病し、飼犬を咬み、その飼犬が家族を咬み、通学途中の子供を咬むということになれば、人命に関する問題です。（狂犬は遠走し、十時十五時時に四十枚以上と言う例もある。又、野犬のそれは、山で死ぬが、飼犬はその飼主又は、その近くで死ぬことが多い）狂犬病は非文明病と言われて居りますが、現在当病気を撲滅した国として、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、日本等があります。

日本では、一八九七年（明治三十年）「獣疫予防法」が実施され、届出、隔離、野良犬の捕獲、消毒法などの規定、一九一九年（大正八年）「予防注射が全国的に行われ、一九五〇年（昭和二十五年）に「狂犬予防法」が公布され、一九五六年（昭和三十一年）を最後に、本病を見ていない（試験場を除く）。この度のバストス市郡に於て「狂犬予防法」を公布し、実施されることは、ブラシル広しと言っても、当市が最初との事、我々日本人は前記の如く、この法令は、あたりまえと思っておりました。今回各地を巡廻した折もブラシル人の一二名を除き、ほとんどの人が、心よく協力して下さい、私もお手伝いに、残る市内及び数地区への協力を努力いたします。

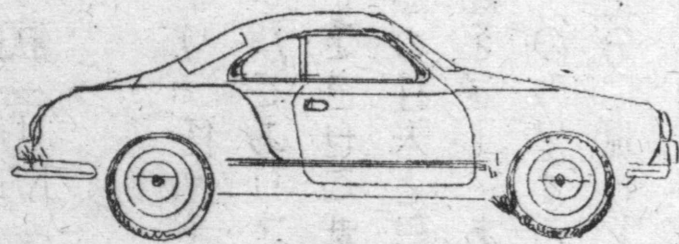
未だ、野犬の捕獲、殺処分、毎年の実施等大變困難をきわめるでしょうが、これは、市役所及び、一般の皆様に一層の協力が願われるものです。

（尚、犬に咬まれた場合、その犬をすぐ殺さずに、十時二十日間隔離し、病症の有無を見る必要がある。咬まれた人は直に医師に診てもらふこと）
実施に當つて、あちこちで狂犬病で亡くなった人の多い事を聞いたり、教材に於ての本病の惨状はまことに甚しい事を識り、この実施の意義の大きいことを知る次第であります。

CRUZAUTO

Oswaldo Cruz Automóveis LTDA.

Conserto em oficina terão desconto de 20% -
sobre mão de obra Aquisições das peças terão
descontos de 10%



クルザウト自動車有限公司

オスワルド クルース市 C.Pstal 156

修理費は20%の割引

ペッサは10%の割引

世界の高級車ヴォクスワーゲン

中古車を引取新車と交換

銀行融資販売の御世話致します。

Aviso de Cine Bastos

五月五日(火)六日(水) 二夜とも八時 リーブル
五月八日(金)八時 九日(土)九時半 十八才
五月十日(日)九時半 十一日(月)八時 十八才
五月十二日(火)十三日(水) 両夜とも八時 リーブル

運が良けりや (松竹) 飯田蝶子 富永美沙子
松竹 倍賞千恵子 花沢徳衛 藤田まこと
天竺色 裸の生れて氣がで着つゝ金は天下の廻りもの ホイ来た生きこりやん 機嫌さん 江戸はいさか狹すざろ
五月八日(金)八時 九日(土)九時半 十八才
脚本 藤本義一 監督 中村鉄太郎
田村二郎 坂本スミ子 成田三樹夫
江波杏子 天知茂 小沢昭一

早打ち犬 (天竺色) シタバタするな可愛いハシギが目を覚ます 弾丸ロックが乱れ打ち
五月十日(日)九時半 十一日(月)八時 十八才
東映 淡島千景 大原麗子 三益愛子 野添ひとみ
天竺色 佐々間良子 小暮実千代 桜町弘子 田村高廣
豪華な女性オトルスターを描く... 金欄の打掛の表にむむ大奥三姉妹愛憎物語リ、

その人は昔 (東宝) 舟木一夫 原作、脚本、監督
天竺色 内藤洋子 松山善三
五月十五日(金)八時 十六日(土)九時半
原作 子母沢寛 監督 三隅研次

サザンと子ブロンおばさん (東宝) 江利チエミ 白川由美 清川虹子
天竺色 小泉博 高島忠雄 藤原釜足
抱腹絶倒ノチエミと三益愛子の初顔合せノ名コンビで贈る笑いの大旋風ノ、

座頭市血煙り街道 (大映) 朝丘雪路 小沢派太郎
天竺色 高田美和 中尾ミエ 近衛十四郎
敵は剣豪素浪人ノ挑む相手が強まれは、より強えわたる仕込杖、みなし子け手に斬りまくる市ノ

名作映画 日とも五月十七日、十八日 上映 川端康成イベル受章記念作品